厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

言語聴覚士等による人工内耳・補聴器装用者等に対する
言語リハビリ等の遠隔医療の体制整備のための研究（25GC1012）

研究分担者：新田　清一

栃木県済生会宇都宮病院・耳鼻咽喉科・主任診療科長

研究要旨

補聴器導入後3ヵ月の経過を対面群と遠隔群で比較し，遠隔診療においても対面と同等の有効性が得られ，通院困難例に対する新たな選択肢となり得ることが示唆された。

A．研究目的

補聴器導入後3ヵ月間の経過を対面診療群と遠隔診療群で比較し,遠隔補聴器診療の有効性および安全性を検討することを目的とした。

B．研究方法

当院において補聴器導入患者を対象に,対面診療群および遠隔診療群に分け,導入後 3 ヵ月間の経過を比較した。評価項目は音場検査および語音明瞭度検査による適合率とした。

C．研究結果

対面群4例､遠隔群4例(**表１**)を比較した結果、適合率は両群ともに100%であった。語音明瞭度検査およびSSQ12（日常生活における聞き取りの困難さを評価する質問紙）でも群間差は認めなかった。また遠隔群に対し、遠隔診療の満足度を5段階尺度（1：非常に不満～5：非常に満足）で7項目について調査した結果、回答全体の平均は4.3±0.9点と高く、86%の回答が「4点以上」であった（**図１**）。

D．考察

遠隔補聴器診療は対面診療と同等の有効性を示し，満足度も高い結果であったが，その利便性は対象者のデジタルデバイスへの習熟度に依存する可能性があり,導入時には操作支援や環境整備が重要と考えられる。

E．結論

遠隔補聴器診療は対面診療と同等の有効性が示唆され,適切な支援体制のもとで有用な選択肢となり得る。

F．健康危険情報

G．研究発表

1.　論文発表

該当なし

2.　学会発表

該当なし

)

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

該当なし

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

表1

	対面群（n=4）	遠隔群（n=4）
年齢（歳）	73.5（67-78）	74.5（46-83）
性別，男性/女性	2/2	1/3
良聴耳　純音聴力閾値（dB）	43.1（36.3-52.5）	40.1（7.5-46.3）
不良聴耳　純音聴力閾値（dB）	51.9（43.8-65.0）	50.6（47.5-57.5）
補聴器適合判定　適合（%）	100	100

連続変数：Median（min-max）
性別：n

図1

